



MARIO GIACOMELLI

マリオ・ジャコメリ展

15 MARCH 2008 – 6 MAY 2008
[MONDAY CLOSED/EXCEPT 5 MAY]
TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY/10:00 to 18:00
THURSDAY & FRIDAY OPEN 10:00 to 20:00

2008年3月15日(土)~5月6日(火) 月曜日休館 [但し5月5日(月・祝)は開館]
東京都写真美術館 開館時間: 10:00~18:00 (木・金曜日は 20:00まで、入館は閉館の30分前まで)
入場料金: 一般 1,000(800)円 / 学生 800(640)円 / 中高生・65歳以上 600(480)円 (第3水曜日は65歳以上無料)
※()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料

主催:朝日新聞社、Conversation、HAWIT 共催:東京都写真美術館 協賛:イタリア文化会館 お問い合わせ:カンパセーション TEL 03-5280-9996



知られざる鬼才
マリオ・ジャコメリ展

MARIO GIACOMELLI
15 MARCH 2008 – 6 MAY 2008 [MONDAY CLOSED/EXCEPT 5 MAY]
TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY/EXHIBITION GALLERY, 2F
10:00 to 18:00/THURSDAY & FRIDAY OPEN 10:00 to 20:00

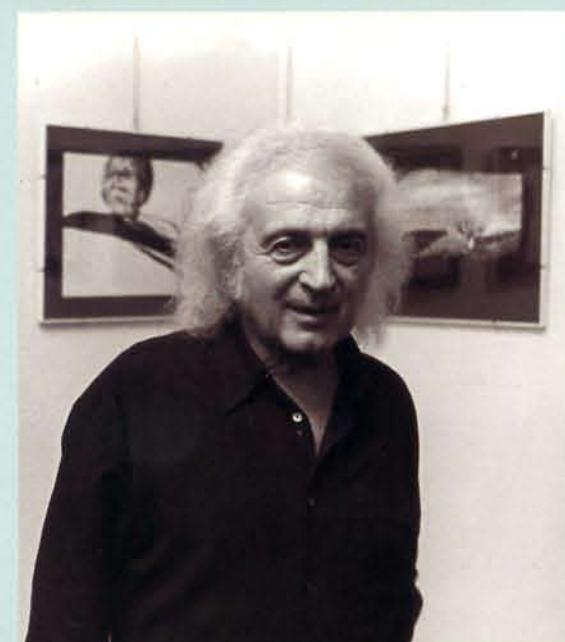


東京都写真美術館

MARIO GIACOMELLI

15 MARCH 2008 – 6 MAY 2008 [MONDAY CLOSED/EXCEPT 5 MAY]
TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY/EXHIBITION GALLERY, 2F

知られざるマリオ・ジャコメリ



1950年代から写真を撮り始め2000年にその生涯を閉じたイタリアの写真家マリオ・ジャコメリは、戦後の写真界を代表する写真家の一人です。その長い活動期間と欧米での高い評価に較べると、我が国において知られる少い写真家と言えます。イタリア北東部のセニガリアで生まれ、ほとんどの作品をその街で撮り続けたアマチュア写真家です。まとまった展覧会としては日本初となる本展では、「ホスピス」「スカンノ」「若き司祭たち」「風景」といった代表作のシリーズはもちろん、最晩年のシリーズまでも網羅し、強烈なハイ・コントラストで「死」と「生」に立ち向かい、孤高の写真表現で現実（リアル）を抽象した「ジャコメリの世界」を紹介いたします。

今、日本ではジャコメリと同じ2000年に亡くなった植田正治や、その2年後に亡くなった鶴川洋一といった地方に根を下ろして作家活動を行ったアマチュア写真家が見直されています。一地方に腰を据えた作風はイメージを素早く作り消費しようと待ちかまえる都会的趣向にそぐわない面がありました。じっくりと凝視を求める作風だと言えます。ジャコメリの作品からは詩や絵画に近い語法を読み取られるかも知れません。そのように見えることもまた写真表現の持つ豊かさなのです。ぜひこの機会に我が国では「知られざる写真界の巨人」であり、「黒」と「白」とを見事に操り、内面に胚胎した思いを表現しつくしたジャコメリの写真群をご鑑賞下さい。

ジャコメリは心を乱す

2000年に死んだこの写真家は、おそらく写真家のなかではもっとも複雑な深さのなかでイメージを作っていた。ある文化を身につけ、それによって非常にゆたかな表現の可能性をえているが、そのさまざまな歴史が縫(もつ)れながら、ジャコメリのイメージに流れ込んでいる。それはわれわれの存在の深層を貫いて心を乱すのである。

多木浩二／美術・写真評論家

マリオ・ジャコメリへのオマージュ

マリオ・ジャコメリは、「いまを永遠に」「永遠をいまに」という写真家の願望を具現化した20世紀最高の写真家の一人だ。そして、いま、時空を超越した写真がここにある。

細江英公／写真家

妥協を許さぬ迫力

なんという強さで人間の、または自分自身の内面をえぐる作品を写し出した作家だろうか。世間の一切の商業主義を排したところでしか写し得ぬ、彼独特の深淵の世界が、見る者に妥協を許さぬ迫力で迫ってくる。彼は日本ではそれ程知られた存在ではないが、世界で最も真摯に「生と死」を切り取った写真家の人ではないだろうか。

ハービー・山口／写真家

高潔な美しさ

絶望や失望さえも美しく切り取ってしまう。

『死』とは恐れだけではなく

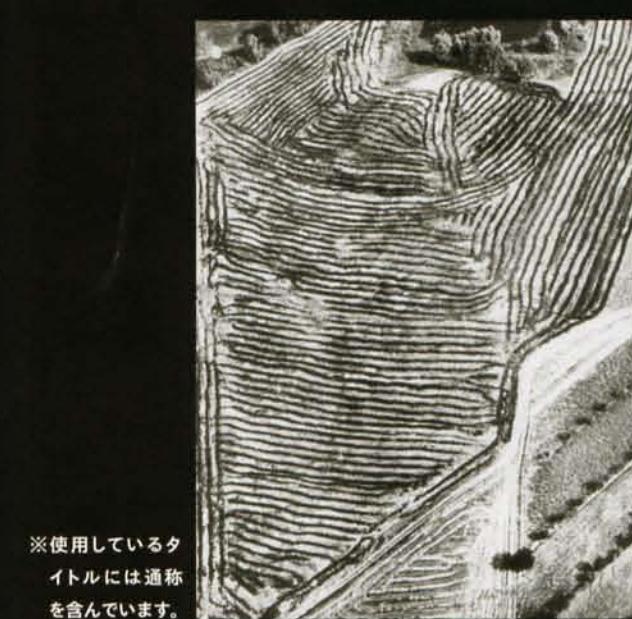
高潔な美しさも併せ持つのだと教えられた気がする。

福山雅治／アーティスト

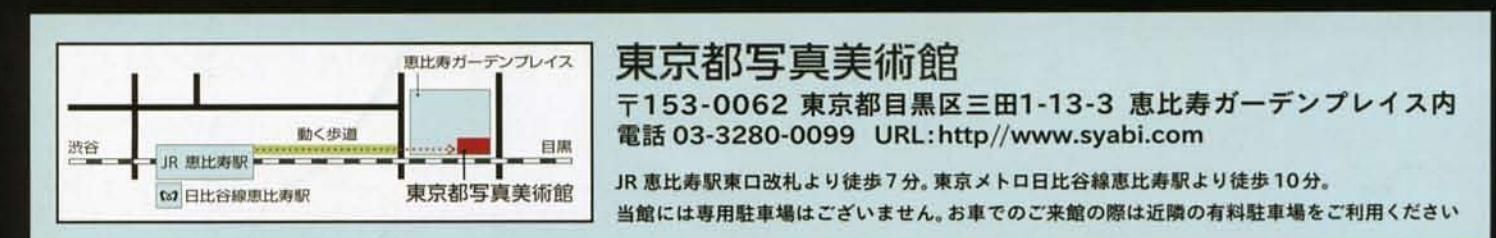
マリオ・ジャコメリの「黒」と「白」の世界

主な作品

ジャコメリの作品は最初期のものを除くと全て複数の写真によって構成される。またその多くの何年にも渡る時間経過を経て撮られた写真群によって構成されている。
代表作とされるのは「ホスピス」(1954-83)、「風景」(1954-2000)、「スカンノ」(1957,59)、「若き司祭たち」(1961-63) それに追作となった「この想い出をきみに伝えん」(1998-2000)だ。「ホスピス」は母が下働きをしていたので幼少期から入りし、ジャコメリの終生のテーマである「死と生」が胚胎した場所にカメラを持ち込んだものだ。「風景」では休耕地にあたかもアース・ワークのように思いのままの跡を作り、空撮を行い遠近感を除去した抽象的構成により大地の内包する「死と生」に立ち向かった。「スカンノ」はイタリア中央部の古邑を2度訪ね、中世以来変化の無いように見える村を撮った。「若き司祭たち」は神に捧げた生涯のまだ入り口にいる若者の宿命を幻想的に示している。追作ではセルフイメージによって写真家自身も登場する。



表面:
「若き司祭たち」より
裏面:
「スカンノ」より



東京都写真美術館

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
電話 03-3280-0099 URL: http://www.syabi.com

JR 恵比寿駅東口改札より徒歩7分。東京メトロ日比谷線恵比寿より徒歩10分。
当館には専用駐車場はございません。お車でのご来館の際は近隣の有料駐車場をご利用ください

All photos © Giacomelli estates